

私の瞳に映る和歌山

張 大鶴
教育学部 交換留学生 中国

時間の経つのは本当に早いもので、留学生として日本に来て四か月、まったく光陰矢のごとしだ。まだそんなに長い月日経っていないけれども、和歌山という土地にあるいろいろなことに触れ合って、数えきれないほどのさまざまな経験をし、和歌山で作られる素敵な思い出がいっぱいだ。これらの経験や記憶は、一生忘れないだろう。

故郷の友達に「あなたの瞳にはどんな景色が映っているのだろうか」とか、「和歌山に行ってどんな感じがしているのだろうか」とかいろいろな質問をよく聞かれる。「一体何だろう」と、何度も自分でつぶやき、自分で自分の本心を聞きたいなと思った。それで、きちんと考えてみたところ、やはり、和歌山に住んでいる人たちの、自然と調和するライフスタイルが、何よりも自分の好みに合っているのだと思う。



私たちはこの広くて青い地球に暮らすというより、むしろこのガイア、あるいは自然と、一心同体になるほど固く結ばれているのだ。それぞれの人は自然から来て、自然に向かおうとしているのではないだろうか。この理由こそ、この世に生きている私たちにとって、自然とこのガイアを何よりも大切にすることが、もはや生活に欠かせない

ものになっている理由だろう。和歌山は自然とのバランスがよくとれているところであり、緑の楽園といっても過言ではないと思う。和歌山にあるあちこちのメインロードは、いくら狭くてもその両側に高い木があったり咲いている花が付いていたりして、緑の道というイメージが強いのだ。そのみならず、和歌山県の中中部や南部には、大きな森林が見尽くしきれないほど多くあって、豊富な自然が色濃く残っている。高野山や熊本古道の立派な建物は、森と一体になって分かつことができないように森林の中に隠れているのだ。和歌山で私の最もお気に入りのところは、紀伊水道の沿岸にある雑賀崎というところである。和歌山市の中心からわずか20分で雑賀崎に着ける。特に、雑賀崎灯台から遥かな遠くを望むと、凄く美しい海や小島や青空の眺めがすばらしい。なぜ町からそんなに遠くないところでそれほど自然豊かな景色が見られるのだろうか。和歌山では元々の自然の眺めが守られてきて、自然とのバランスがよくとれている、ということであろう。



そればかりではない。和歌山に住んでいる人々は、日常生活で非常に「人と自然の調和」というものを重視していることに気が付く。和歌山の住民はありのままの環境を巧みに生かし続けて、ライフスタイルに合った自然な環境を作り出す。しかも、住民はさまざまな種類の樹木や花が好きらしく、自宅の庭やベランダ又は何もないところにも、き

れいな植物を植えている。空いた土地さえあれば、なるべく種子をまき、苗を植えて、植物を育てるのだ。そのおかげで、荒地はなくなり、和歌山は元々の美しさを取り戻せて、潤いのあるところであり続けているのだろう。ここに住んでいるみんなは、自然と調和した覚悟を持っている。つい最近、中央通りに沿って散歩しているとき、ゴミを拾っていたボランティアグループに出合った。これらの人は身近な環境を守るために、自発的にボランティアグループを作って、環境の美しさを取り戻そうとしている。本当にこの環境に優しい行動に感動した。これこそ、自然との調和を図る証ではないだろうか。

和歌山に留学したことは本当にラッキーだった。ここで作られた思い出を宝物にしようと思う。和歌山は美しいところだし、人々も優しい。その上、最も気に入っていることは、住民の、自然と調和するライフスタイルである。これが、私の瞳に映る和歌山である。